

全薬会議 道修町 ニュース

2004年 8月 第6号

残暑お見舞い申し上げます！

今年は、いつのまにか夏がやってきて、そして今、いつのまにか立秋を過ぎ、暦の上でははや“秋”。でも、まだまだ暑～い“夏”。特に今年の夏は暑い！ くれぐれも健康にはお気をつけください。道修町ニュース第6号をお届けします。



全薬会議中央主催の

民医連懇談会が開催されました



5月21日夕方より全日本民医連と全薬会議との懇談会が、民医連の会長、事務局長、事務局次長、常駐理事の4名の最高幹部が参加のもと、民医連本部会議室で実施され、全薬会議道修町からも会長が参加しました。

全薬会議より事前の申し入れの「医療保険制度改悪後の現状認識や今後の運動のあり方、全薬会議が取り組んできた後発品使用促進の取り組みと厚労省の医薬品産業政策の問題等について」に関して、文書と口頭で回答とご意見を頂きました。国民皆保

険の下で医療が行われているわが国では、「医薬品は利潤追求だけではなく公共性の高い物質という観点を医薬品企業は重視すべき」というご意見と共に、全薬会議とは医療制度改悪反対の取り組みだけではなくさらにつつこんだ医薬品についての課題や問題についても共同行動を起こしていければとの提起がありました。

今回初めての懇談会でしたが、今後の共同行動の提起に大いに励まされました。共に頑張りましょう。



全薬会議 道修町 第二回総会開催

全薬会議道修町も、「国民の健康と生命を守る医薬品づくりをめざし、労働者の生活と権利を守り、行政・業界・職場の民主化実現のために活動する」(申し合わせ事項)組織として2003年の2月に産声を上げ、以来、早いもので2年目を迎えました。

この間の活動を振り返り、運動の方向を再確認し、新たな1年の活動方針を決めるべく、第2回の総会を4月17日に開催し、新役員を選出しました。引き続きご協力とご支援を宜しくお願いします。

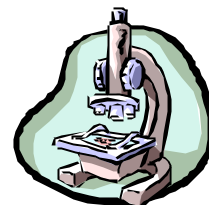


道修町ニュースコラム：膨れ上がる医薬品研究開発費

またまた大型合併が報道された。仏サノフィ・サンテラボが仏独企業アベンティスを TOB で買収、国内でも山之内と藤沢が合併を発表した。相次ぐ大型合併の動機として、一様に膨大な研究開発費を捻出するためと報道している。世界の製薬企業主要 30社の 2003年の医薬品売上 3289億ドル (約 36兆円) に対して、未公表企業分を除外しても 409億ドル (約 4.5兆円) が研究開発に投入されている。国内製薬企業に限ってみても、主要 12社の 2003年度の連結売上 4兆 6千億円に対して、6千 6百億円が研究開発に投入されている。

歴史的に見て、医療技術の向上と医薬品の研究開発の成果が多くの病気を克服してきたのは事実である。とはいえ、年間 4.5兆円もの研究開発費が果たして妥当なものと言えるだろうか。製薬企業各社が、がん、免疫、循環器、代謝性疾患など市場性の高い領域に絞りこんで研究開発のしのぎを競っているのを見て、「巨額の無駄」とは言えまいか。ベーシックな医

薬品が行き渡らずに、多くの人命が失われていくのを報道で見聞きするにつけ、巨額の医薬品研究開発費のもつ



意味について疑問の念を禁じえないのである。

製薬企業は巨額の研究開発費を投入し、他者よりも早く新薬を市場に出して、先発会社としての利益を得なければ勝ち残れない。」これは、弱肉強食を旨とする資本主義社会で活動を展開する企業としては当然の理屈かもしれない。

しかし、いかに資本主義の世とは言え、人類の叡智を働かせなければならない問題のひとつではないだろうか。人類が本当に必要とする新薬をより効率的に開発する新たなシステム、一企業にゆだねるのでなく、国際的な研究開発システムが創出されてもよいのではないかと思っている。いかがであろうか。

(N 記)

会員・友人・知人交流会開催のお知らせ



昨年好評でした“佐々木”での床料理、ご要望にお答えして、本年も開催することと相成りました。鴨川のこちよいそよ風を頬に、そして、せせらぎを耳にしながら、美味しい床料理に舌鼓、なんていかがでしょうか？ 多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日程：2004年9月4日(土) 18時～

会場：京料理 鴨川床 “佐々木”

藤沢薬品仙頭さん男女差別裁判支援にご協力ください

全薬会議道修町では、会員でもある仙頭さんの差別裁判勝利のため支援活動を行っています。

§ 9月17日(金)エルおおさかで開催の“支援する会総会”に参加ください

§ 裁判勝利のリーフレット普及にご協力ください(後日、全薬道修町より郵送いたしますのでご協力ください)

全国薬業労働者連絡会議(全薬会議)・道修町

連絡先：大阪市淀川区西宮原町2-6-64 日本シェーリング労組内 全薬会議大阪ブロック気付
TEL：06-6392-5690 FAX：06-6392-5691